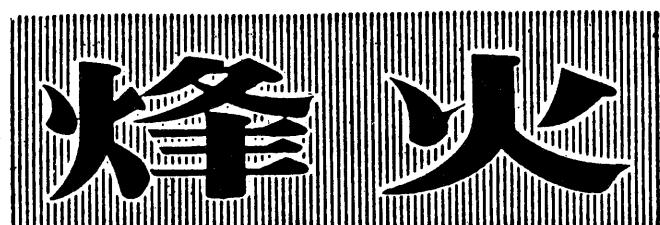


国際帝国主義の侵略反革命・第三世界支配を粉碎し、全世界の帝国主義を打倒せよ！世界プロレタリア革命—世界プロレタリア独裁—共産主義を実現する新しいインターナショナル（世界単一党）を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

争
奪
の
内
容

10月国際会議の成功を
.....P1~3
全国で国際会議の準備進む
.....P6~7
天皇訪中阻止せよ.....P7

1992年
10月1日
第447号
編集発行人 海路 薫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19
明豊ビル401号 大労協内
TEL.(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150

アジアの反帝勢力が結集



（次ページにつづく）

全国の人民が大久保基地を包囲

9月27日
(詳報次号)

自衛隊のカンボジア派兵が開始されるなか、アジア各国の先進的人民の共同の力によって「日米軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する一〇月国際会議」（略称・一〇月国際会議）の開催が、内外の注目を集めながら着々と準備されている。本年七月に結成された一〇月国際会議日本実行委員会はすでに二回の総会を終え、これを受けて日本実関西会議、関東会議、愛知会議が連続して開催してきた。アジア・太平洋地域の各地からは、フィリピン、韓国、台湾、香港、マレーシア、インドネシア、ネパール、インド、バングラデシュ、オーストラリア、ニュージーランドなどの人民組織が一〇月国際会議への賛同や参加の意思を次々に表明している。日本国内においても、アジア人民とともに自衛隊の海外派兵と共同でたたかおうという気運がますます高まっている。われわれはここに一〇月国際会議の意義を再度鮮明にし、その成功のために全力をあげることを全国の先進的労働者・学生に訴えるものである。

開始された共同の反撃

さる九月八日、自民党政権はカンボジアPKOの実施計画を閣議決定した。世界の平和と安定のために国連の要請を受けてカンボジアに要員を派遣するというこのカンボジアPKO実施計画は、国内外の強い反対をおしきつて強行成立させられたPKO協力法の具体的発動であり、日帝の新しいアジア侵略開始の合図である。本年九月一日から来年一〇月三一日までを実施期間とするこのPKO実施計画によれば、カンボジアPKOのために編成される「国際平和協力隊」の構成と人員は次ページの表のようになっている。カンボジア派兵に関連して直接動員される自衛隊員は、施設部隊の交代要員を含めると総数一七三六人になる。

●カンボジアPKO派遣部隊のうちわけ

業 務	構 成	規 模
停 戰 監 視	自 衛 官	8人(交代要員含めると16人)
警 察 行 政	警 察 官	75人
建 設 業 務	陸上自衛隊部隊	600人(交代部隊含めると1200人)
部隊の輸送等	海上自衛隊部隊 航空自衛隊部隊	400人 120人
	小計	1203人(交代要員含めると1811人)

*カンボジア国際平和協力業務実施計画より

「輸送・補給を行うことができる」とされている点である。こんなに重要なことが、こつそりと実施計画に入れられているのである。日帝はカンボジアPKOを利用し、もつともらしい理由をつけてカンボジア以外の地域にも自衛隊を送り込み、将来の派兵のために諸国の諸施設を軍事利用したり、あるいは自衛隊員を駐留させることすら狙っているのである。施設部隊等の輸送にあたる航空自衛隊・第一輸送航空隊は、タイのウタパオ基地に前線基地を置き、ここに二〇〇～三〇〇人の要員を常駐させる方針をすでに決定した。また輸送の飛行ルートについて、フィリピンなどを経由し、延べ三日かけてカンボジア入りするという計画が作成され、この計画にもとづいて九月二三、二四日の両日に二班に分かれて小牧基地を出発した第一次先遣隊（三〇人）は、沖縄の那覇空港で一泊したあと、給油等の名目でフィリピン、タイに立ち寄り、一五、二六日にそれぞれカンボジアに入りした。

こうしてカンボジアへの自衛隊派兵が、カンボジアのみならずアジア全域において自口の政治的・軍事的プレゼンスをいつきよに強めようとする日帝の野望の具現化であることが、ますます鮮明になってきている。まさに新しいアジア侵略と呼ぶべき動きが本格的に始まつたのである。このような日帝の動向に対して、アジア

また派遣される。自衛隊員には、武器（九ミリ拳銃、六四式小銃）が一人一丁ずつ与えられることが明記された。武装した大規模な自衛隊部隊が、戦後初のアジア派兵に乗り出すことがここに宣言されたのだ。

各国の人は強烈な批判を投げかけ続いている。カンボジアPKOへの参加は国際貢献だ、アジアの平和のための活動だと日本でマスコミ等が宣伝しているときに、アジア各国には、これを「日本の軍国主義化」「軍事大国化」「第二の侵略」と批判する声は絶えない。また近年アジア各地において、従軍慰安婦問題など侵略戦争被害に対する戦後補償を日本政府に要求する声がいっせいに噴出しているが、それらは日帝の過去の侵略に対する告発であるばかりでなく、同時に現に進行する日帝の新しい侵略に対する厳しい批判でもあるのである。

残念ながら、こうしたアジア人民の声にわれわれ日本の労働者人民は十分に応えることができていない。たしかに日本の人民の内部には、自衛隊の海外派兵に対する広範な反対の声が根強く存在している。七月の参院選・選挙区における反PKO候補の当選や善戦はそのことを示した。また現在、派兵部隊の出撃基地等に対する抗議運動も全国各地で一定の盛り上がりを見せていている。しかしそれらの日本人民の動向は、国連を中心とした国際貢献の活動に日本も積極的に関わるべきだ。ただしそれは平和的な方針で」という社会党に代表されるような体制内反対派の論理の影響から決して自由ではないことをふまえておかねばならない。日本のブルジョアジーが宣伝してきた「国際貢献論」なるものは、新たなアジア侵略に向けて国民統合をはかるために思想的手段である。ブルジョアジーの

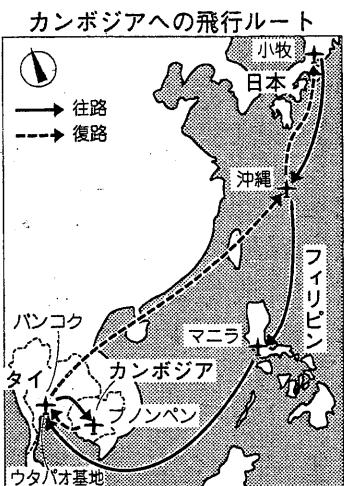
国際貢献論を支持したうえで、それは平和的に
行われるべきだ云々とするようなあらゆる立場
は無力であるばかりでなく、日帝の侵略を容認
してアジア人民との連帯に背を向けることにつな
がるのである。

先進的労働者人民は派兵に反対するのはもち
ろんではあるが、同時に日帝の新しい侵略の野
望を粉飾し合理化する「国際貢献論」や「国連
中心主義」の思想攻撃ともたたかわねばならな
い。そして何よりも、日帝の新しいアジア侵略
の攻撃にさらされるアジア人民との共同闘争を
うち立てていくことを、自衛隊の海外派兵に反
対する労働者人民に向かって訴え呼びかけ、彼
らをこの隊列のもとに組織していくために奮闘
しなければならない。アジア人民との共同闘争
を通じてこそ、日本人民はPKO派兵がいかに
侵略的なものであるかを鮮明につかみとること
ができるし、自国帝國主義との闘争に立ちあが
ることがいかに重要であるかをはつきりと自覚
することができるのである。

反帝統一戰線的第一步

反帝統一戦線をアジアに建設することは、

在ますます緊要な課題となつてゐる。ソ連の崩壊という事態を受けて、国際帝国主義による好き放題の支配の強化がアジアにおいても進行している。その中軸を担つてゐるのが日米帝であり、米帝は引き続きアジアにおいて「第一級の軍事大国としての地位を維持」（『米国防計画指針』）しようとし、日帝は米帝をもしのぐ勢いの経済力を武器にしてアジアの新しい盟主としての登場を狙つてゐる。日米帝を中心とする国際帝国主義はその内部に大きな対立をはらみ



ボジアのみならずアジア全域において自己の政治的・軍事的プレゼンスをいっきょに強めようとする日帝の野望の具体化であることが、ますます鮮明になってきている。まさに新しいアジア侵略と呼ぶべき動きが本格的に始まつたのである。このような日帝の動向に対して、アジア

日本軍事同盟と日本軍海外派兵に反対するアジア人民の會議』または『アジア人民の會議』とする」。

今回の一〇月国際會議が大きな成功をおさめれば、新しい「アジア規模の国際機構」を創出しようといふこの提起を支持する声はその内部で不可避に強まっていくであろう。すなわち二〇月国際會議の成功は、アジアにおいて帝国主義とたたかう人民の統一戦線を形成していく現実的な基盤をつくりだすのである。この点に、

(朝日新聞より)

ながらも共同し、一方で「アジア社会主義」と総称される中国、北朝鮮、ベトナムなどの国々を包囲し孤立化させ、これらに対する圧迫と懐柔の両面攻撃を強め、他方では「地域紛争の解決」と称して、彼らがアジア支配の強化のために重要視する地域へのほしいままの介入を進めている。そして日帝はこのような「アジア新秩序の形成」と呼ばれる帝国主義によるアジア支配の再編・強化の先頭に立ち、その最大のヘゲモニーを握ろうとしているのである。カンボジアへのPKO派兵、一〇月下旬に予定される天皇訪中が、このために使われる日帝の強力な切り札であることはいうまでもない。

アジア各地に吹き荒れる帝国主義の攻撃とたたかい、人民の国境をこえた團結をつくりあげ、アジア各国とアジア全体の階級闘争の発展に大きく寄与するような反帝統一戦線の出現が待ち望まれている。アジア反帝統一戦線の展望を現実化する条件はどこにあるのか。一〇月国際會議において、新しい「アジア規模の国際機構」としての「アジア人民の會議」の発足をアジアの先進的人民とともにかちとること、一切はこ



PKO要員の輸送にあたる空自部隊（9月18日 小牧基地）

共産主義者の協議会を

さらに一〇月国際會議はまた、アジアにおける共産主義運動の再建をかちとていくうえでも重要な意義をもっている。

ソ連崩壊という情勢のなかで、いま世界の共産主義運動は大きな困難を強いられている。ソ連の崩壊は共産主義敗北の証明だとする国际ブルジョアジーの反共宣伝は先進資本主義諸国を中心にして一定の成果をおさめ、資本主義国では多くの人々がこの宣伝を信じこまされている。またソ連・東欧諸国の「援助」を受けてきた第三世界の革命運動や革命権力はその全面停止によって大打撃をこうむり、米帝等の反革命的包囲の強化のなかでキューバなどでは物資の欠乏や生活水準の大幅な低下を余儀なくされている。アジアにおいてはソ連崩壊後も中国など複数の「社会主義国」が生き残った。とはいってもこれらの国々の党の路線は、アジアの共産主義運動に何の利益をもたらさないばかりか、逆にその前進を阻害している。たとえば現在の中国共産党の改革・開放路線は、いわば「共産党指導下での

から始まる。われわれ日本の労働者人民は、「宗主国」内労働者人民の国際主義的責務にかけ、このアジア反帝統一戦線建設の事業を全力をあげて支え、担わねばならない。

資本主義化」を進めるものであるが、アジア諸国はこのような中国の現実を見て、共産主義に失望することはあるが、共産主義をみずからが結集すべき希望としてとらえることはありえないであろう。

しかし歴史的な視野で事態を総括すれば、ソ連・東欧圏の崩壊、中国の破産的事態などは、長きにわたって国際共産主義運動を支配し、その発展をおしとどめてきたスターリン主義が最終的に破壊した結果発生した現象であり、今日の局面はスターリン主義に代わる新しい共産主義運動が全世界で生まれ成長していく時代の開始としてとらえられるのである。共産主義がプロレタリアート人民の理想として存在し続ける物質的根拠、またそれを実現可能とする物質的な条件は、資本主義がつくりだしたこの現代世界そのもののなかにいぜんとしてある。そして共産主義の理想を現実の実践と運動に転化する思想的武器としてのマルクス・レー寧主義は、スターリン主義と分岐しマルクス主義の諸原則

を堅持しようとする全世界の共産主義者たちによつて再び生命力を与える途上にある。時代はわれわれに、スターリン主義に代わる新しい共産主義運動の創建をめざす国際的潮流をつくりだすことを要請している。全世界の原則的な共産主義者（党）は、自分の抜本的変革と飛躍をおし進め、帝国主義に対する共同の闘争を組織しながら、共通の歴史総括と綱領のもとに新しい国際的な結合を実現していくことを求められている。われわれはアジアの共産主義者として、アジアにおける共産主義者の協議会を創設していくことを展望する。一〇月国際會議の組織化とその成功は、こうした展望を現実のものにしていく最初の、しかし確実な条件をわれわれに与えるであろう。

■ □ ■

アジアに反帝統一戦線を

お申し込みは
大阪戦旗社に

発売中

もくじ

- (4)(3)(2)(1) 日帝の新たなアジア侵略
- 日帝支配下のアジア人民
- 反帝統一戦線への第一歩
- 共産主義者協議会の建設

■ 発行日
一九九二年八月一日

■ 定価 300円
B5版 10ページ

取締全集卷之十八

9·17

東京・日比谷野音



全労協傘下労組などが参加し盛りあがりを示した9・17集会

九月一七日、戦後はじめてのアジア派兵部隊が広島の呉から出発した。この日、東京では、「自衛隊のカンボジア派兵に反対する九・一七緊急全国集会」が日比谷野音で開かれた。PKO協力法案強行成立策動に対し

韓國の遺族会があいさつ

九月一七日、戦後はじめてのアジア派兵部隊が広島の呉から出発した。この日、東京では、「自衛隊のカンボジア派兵に反対する九・一七緊急全国集会」が日比谷野音で開かれた。PKO協力法案強行成立策動に対し、韓国遺族会がいさつ約三〇〇〇人が集まつた集会は、長谷百合子衆議院議員と大久保青志都議の司会で進行した。まず主催者を代表して斎藤一雄衆議院議員からあいさつがあり、「本日の集会を契機にして、海外派兵をやめさせる恩の長いたたかいを」との決意が表明された。つづいて田英夫参議院議員から、カンボジア現地調査の報告が行われ、ポル・ポト派が武装解除を拒否しているという情況のなかで、PKO法の五原則に照らしても自衛隊は派遣できないことが訴えられた。連帯いさつでは、まずダグラス・ラミス氏が、「自衛隊の海外派兵に反対するアジア・太平洋市民による共同著名」運動を提起し、アジア諸国への反応がたかまるなかで日本での署名運動の拡大を強く訴えた。つぎに韓国から来日した太平洋戦争の犠牲者遺族会からアピールがあつた。

としている。犠牲者遺族会はこれで「絶対に許さない」と拳をつきあげ、アピールした。

つづいて今回のカンボジア派兵は、中心部隊を出す京都宇治の大久保基地を人間の鎖で包囲する闘争の呼びかけが、京都の自立労連本部から行われた。地元の自衛隊基地から大量にカンボジア派兵がはじまることが対し、息子を戦場に送ることになる組合員をも抱え、生命と生活をまわる反戦平和のたたかいとして、九月二七日に大久保基地包囲の全国闘争を準備していることが訴えられ、「アピール」としてアピールを受ける準備をしていることが報告された。

アセに基ひ量に行もるも月争同をシ諸備をアセの港となつた吳が軍港に変わる。広島は被害を受ける前には加害者だった。軍需産業があり、大本營があつた。過ちは一度とくりかえさないという決意で平和運動を行つてきた。日本政府は従軍慰安婦や強制連行への責任をとらずに、つきの戦争の準備を行うようになった」「わたしは、自衛隊海外派兵反対、PKO反対といふヒロシマの心を全国の人々とともに盛り上げる。三年後の見直しではPKOはもつと危険になる。これからもPKO粉碎、自衛隊派兵反対のたたかいを皆でがんばろう」。

また先の東京参議院選挙をたたかった内田雅敏氏が「戦後補償の実現」をめざした発言に立つた。内田氏は、戦争責任と戦後責任の問題の根底には、天皇制の問題があること、これ

派兵阻止

**の声
全国で強めよう**

予定国についての報告②KMUから
の提起③国際会議における日本報告
案の討議④分科会案についての討議
などであった。

参加予定国については、すでにフィ
リピン、マレーシア、オーストラリ
ア、ニュージーランドなど一二ヵ国
の人民組織の代表が予定されている。

国際会議での日本報告については、
ソ連・東欧の社会主义国の崩壊以降、
帝国主義者がめざしている「世界新
秩序」とは何か、そしてこの中で日
本帝国主義が、どのような位置と役

国際会議の企画と日程

一〇月二〇日	国際会議（一日目）	城陽市総合運動公園内会議場
一一月二一日	国際会議（二日目）	大阪PLP会館
二四日	分科会	（会場未定）
二五日	歓迎セレモニー（東京）	港区勤労福祉会館
二六日	国際会議（三日目）	東京都勤労福祉会館
二七日	分科会	幡ヶ谷区民会館
二八日	国際会議（四日目）	東京都勤労福祉会館
三〇日	国際会議（五日目）	工ル大阪
一一日	国際連帯集会（東京）	愛知県勤労会館小木一郎
三四日	国際連帯集会（関西）	
四日	国際連帯集会（愛知）	

第一回総会には日本人民の運動90を始め、自立労連、東水労、全国一般全国協、全国一般神奈川地連、東京東部労組、海技協労などの労働組合団体、そして部落解放同盟東京都連墨田支部青年部、日本消費者連盟、市民の意見・30の会、反戦・反核・平和運動連絡センター、日比連帯人民委員会、寄せ場の階級的労働運動に連帯する会、日本フィリピン連帯運動、情況出版、PKOに反対する学生有志の会などの諸団体、合わせて一六のたたかう諸団体・個人が参加し、フィリピンからはKMU（五月一日労働運動センター）の代表が参加した。

九月一日　日本軍事同盟と日本軍の海外派兵に反対する一〇月国際会議（略称・一〇月国際会議）日本実行委員会第一回総会が東京で開催された。

害を果たそうとしているのか、また日本軍の形成過程はどのようなものであり、今後、日本帝国主義はアジアにおいていかなる戦略をもって軍事侵略を開始しようとしているのか、明瞭かにし、そして、これに反対

するアジア各国人民の共同闘争として、そのための国際連帯機構が日本人民のたたかいの未来にとっても是非とも必要であることを提起する報告案が総会において提案され、これをめぐって活発な討議が行われた。とくに、

本実行委員会の関西会議、一四日には愛知会議、一六日には関東会議がそれぞれ開催され、各地方での国際連帶集会の準備も含め、一〇月国際会議を成功させようという動きが全国から本格的に開始された。

関西会議

国際會議 日本実行委員会開西

愛知会議

行委第三回関西会議が大阪において行われた。関西の労働運動、市民運動、学生運動等の代表約三〇人が参加したこの日の会議は、まず最初に、九月一日に開催された日本実業第二回総会の報告および事務局からの報告が行われ、続いてフィリピンKMUの代表から特別発言が行われた。彼は発言の中でも、日本のアジアに対する侵略

九月一四日には名古屋で日本実行委員会愛知会議が開催された。会議には自立労連タカラブネ労働組合由部支部や名古屋労組連などの代表が参加し、愛知での国際連帯集会の開催

国際會議

10月国際会議



10月国際会議日本実行

日本実行委員会が 第二回総会を開催

9:1

東京

全国で準備すすむ

日本人民のたたかいをどのように報告するのか、という点について多くの意見が出された。分科会については、各国の現状を報告する国別の分科会と主テーマ（日米軍事同盟と日本軍の海外派兵）についての複数の分科会がもたらることが基本的に承認された。

烽火

月刊

1部 200円
(通常号)

取り扱い書店

- 北海道／ひらひら(札幌市北区) ● 東京／明治大学生協 (東京都千代田区) 模索舎(同・新宿区) ● 神奈川／ルビコン書房(川崎市中原区) ● 愛知／名古屋ウーニタ(名古屋市千種区) ● 京都／オデッサ書房(京都市左京区) ● 大阪／大阪ウーニタ(大阪市天王寺区) 三鈴書林(同・北区) 関西大學生協(大阪府吹田市) ● 兵庫／神戸大学生協(神戸市灘区) ● 沖縄／沖縄舎(那覇市)

烽火の定期購読をおねがいします

■郵送(密封)1年分………3000円
2年分………5000円

お申しこみは大阪戦旗社まで

■郵便振替

大阪 3-63333 高木一夫

■銀行口座

第一勧銀 515-1058150 高木一夫

一にして、天皇訪中の準備が急速に進んでいる。発表によれば天皇は一〇月二三日に中国に到着し、二八日までのあいだ北京、西安、上海を訪れる予定である。天皇訪中は中国に對する日帝の新しい侵略に拍車をかけるものである。またそれはカンボジアへのPKO派兵とともに、日帝がアジアに対する新しい盟主としての登場をはかるための策謀である。天皇を中国に訪問させ、侵略戦争の責任問題に「決着」をつけ、日中関係の新たな時代の開始を内外に宣言することは、アジアの政治大国・軍事大国をめざす日帝にとって、少なくとも一九七二年九月の「日中邦交正常化」以来の懸案の外交的課題であった。その野望は中国人民の根強い反日意識の前に実現を阻まれ続けてきたが、中国で「改革・開放」を掲げる鄧小平体制が成立したことによって状況は一変した。七八年に来日した鄧小平本人が天皇に訪中

カンボジアへの自衛隊派兵と軌を進んでいた。天皇訪中の準備が急速に進んでいる。発表によれば天皇は一〇月二三日に中国に到着し、二八日までのあいだ北京、西安、上海を訪れる予定である。天皇訪中は中国に對する日帝の新しい侵略に拍車をかけるものである。またそれはカンボジアへのPKO派兵とともに、日帝がアジアに対する新しい盟主としての登場をはかるための策謀である。天皇を中国に訪問させ、侵略戦争の責任問題に「決着」をつけ、日中関係の新たな時代の開始を内外に宣言することは、アジアの政治大国・軍事大国をめざす日帝にとって、少

新たな対中侵略の拡大もくろむ

天皇訪中阻止せよ



天皇の戦争責任を告発する香港の市民(89年2月)

催について討議が行われた。会議後開催された日本実業知ニユースによれば、一月四日、愛知県労働会館小ホールにおいて、「いまどくアジア人民からのメッセージ——日本軍の海外派兵を許さない」——日本知集会」という名称の国際連帯集会が日本実行委員会愛知会議の主催で開催される予定になっている。愛知においても、この一一・四集会の準備を通して、国際連帯運動と派兵反

对運動のこれまでにない大きな前進が切り開かれようとしている。
九月一六日には、第二回総会を引きついで日本実行委員会関東会議が開催された。関東会議では、東京で予定されている一〇月一七日の分科会

に盛り込もうという提案等もなされた。首都圏においては、PKO法成立阻止を掲げた対国会闘争から七月会と一月一日の国際連帯集会の成功に向けて総力をあげることが確認され、これらの準備についての討議が行われた。また会議では、反大皇闘争を首都圏において一貫してたたかってきたメンバーから、一〇月国際会議の開催中に行われる予定の天

皇訪中についての報告を分科会の中でも取り組んでいた。天皇訪中は、盛り込まれた。首都圏においては、PKO法成立阻止を掲げた対国会闘争から七月会と一月一日の国際連帯集会の成功に向けて総力をあげることで、これが全力で支持する。そして、一〇月国際会議の成功を通過して、アジアに国際反帝共同闘争と国際反帝統一戦線を創出するための第一步を力強く踏み出すために全力をあげる。

を直接要請し、その後中国側が天皇訪中を懇願し続けるという日帝にとっては願ってもない事態が生まれ、〇月二三日に中国に到着し、二八日までのあいだ北京、西安、上海を訪れた天皇ヒロヒトの死とともに、新天皇による訪中の策動は一気に現実化していくのである。

天皇を迎えるようとする中国政

府は、天皇アキヒトが父ヒロヒトとは違う「平和天皇」であり、「平和の使者」として中国を訪問するのだといふ宣伝を国内でくり広げている。そして他方では、そんな宣伝が中国人民の心をとらえるはずもないことをよく知っている彼らは、北京大学への監視を強化するなど、反日運動のばつ発を恐れて労働者人民に対する警戒を強めている。鄧小平らが日本にひれ伏してまで必要としているのは「社会主義市場経済」の発展に必要な日本の資本や技術であり、また八九年六月の天安門事件以来続いている西側諸国の対中包囲を日中関係の強化によって無意味なものにし

ていくことにある。鄧小平らに大義はない。彼らが進めているのは社会主義の防衛ではなく、「共産党指導下での資本主義化」であり、そのための「中日友好関係の強化」であるからである。

こうして中国政府のもう手をあげての歓迎という状況下で、広大な商品市場や豊富で安い労働力を目当て

天皇の訪中は、中国政府に日帝のPKO派兵に対する容認・承認を迫るものであり、現在進められている自衛隊のアジア派兵に反対するアジア人民に真向から挑戦するものである。

アジア人民と連帯し、天皇訪中を阻止しよう!

関東会議

(9・16)

対運動のこれまでにない大きな前進が切り開かれようとしている。

会と一月一日の国際連帯集会の成功に向けて総力をあげることで、これが確認され、これらの準備についての討議が行われた。また会議では、反大皇闘争を首都圏において一貫してたたかってきたメンバーから、一〇月国際会議の開催中に行われる予定の天

皇訪中についての報告を分科会の中でも取り組んでいた。天皇訪中は、盛り込まれた。首都圏においては、PKO法成立阻止を掲げた対国会闘争から七月会と一月一日の国際連帯集会の成功に向けて総力をあげることで、これが全力で支持する。そして、一〇月国際会議の成功を通過して、アジアに国際反帝共同闘争と国際反帝統一戦線を創出するための第一步を力強く踏み出すために全力をあげる。

参議院選挙をへて形成してきた反PKO派兵の運動を、アジア人民のたたかいと結合する新たなたたかいが行われた。また会議では、反大皇闘争を首都圏において一貫してたたかってきたメンバーから、一〇月国際会議の開催中に行われる予定の天

皇訪中についての報告を分科会の中でも取り組んでいた。天皇訪中は、盛り込まれた。首都圏においては、PKO法成立阻止を掲げた対国会闘争から七月会と一月一日の国際連帯集会の成功に向けて総力をあげることで、これが全力で支持する。そして、一〇月国際会議の成功を通過して、アジアに国際反帝共同闘争と国際反帝統一戦線を創出するための第一步を力強く踏み出すために全力をあげる。

参議院選挙をへて形成してきた反PKO派兵の運動を、アジア人民のたたかいと結合する新たなたたかいが行われた。また会議では、反大皇闘争を首都圏において一貫してたたかってきたメンバーから、一〇月国際会議の開催中に行われる予定の天

